1版

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実施状況報告書(研究実施状況報告書)(令和元年度)

		機関番号	3 2 6 0 4
大妻女子大学	·		
比較文化学部		·	
准教授			
渡邉 顕彦			
基盤研究(C)(一般)	2 . 課是	夏番号	19K00503
日本関係の近世ラテン語文学 - 成立の	文脈と未校訂写本の研究 -		
令和元年度~令和3年度			
果題について国内ワークショップに2回参加・発表、国イツ・オーストリアにて研究調査を行った。ほか書新応大学日吉キャンパスにて行われたワークショップ「た。また6月23日に早稲田大学戸山キャンパスにて開催プンテーションをし議論に加わった。イデンで行われていた学会ICAS11にてパネル『The Cluescit: The Munich Victor Play and Jesuits as Plescit: The Munich Victor Play and Jesuits as Play and All and Play and All and P	を電子機器購入を通して研究環境を整備した。 プ日本における西洋古典受容』にて「近世ラテン語 されたワークショップ「21世紀の人文知とは一世 nanging Image of Japan on the Stage and in Li urveyors of Information on Early Modern Japan ーン)を訪問し、ミュンスター大学中世・近世ラテ 学アカデミー、ウィーン大学西洋古典・中世~新ご	i、古典受容と Pの古典学が terature in 」と題して発 ン語文献学部	に16~17世紀の日本人」 から考える」にて西洋古 Early Modern Europe』 巻表した。 B、インスブルック大学
ンタン研究 イエズス会演劇 西洋古典学			
			I
	レンツの写本を中心とする研究調査や予備的発表、	関係する国	内外研究者との打合せは
	比較文化学部 上較文化学部 上較文化学部 上較短 上較短 接 接 接 接 接 接 接 接 接	世教授 E という は は は できない できない できない できない できない できない できない できない	接数では、大妻女子大学 は教技では、一様教授の表面のでは、「一般のでは、」」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」」」 「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、「」」」 「一般のでは、「一般のでは、「」」」 「一般のでは、「」」」 「一般のでは、「」」 「一般のでは、「」」」 「一般のでは、、「」」」 「一般のでは、「」」」 「一般のでは、「」」 「一般のでは、「」」」 「

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

8.	今後	の研究	の推進	方笛

2020年度はオーストリアにおける国外研修を予定している。教育義務が免除される期間を活用し、ミュンヘンとコブレンツの写本に残される17世紀日4	≤関係ラテ
ン語イエズス会劇2点の校訂・英訳・注釈を可能な範囲で仕上げ、出版の準備をする予定である。同時に必要に応じてコプレンツとミュンヘンへの研究	調査を行
いたい。	
2021年度は2020年度の作業を続行すると共に、8日にベルギー・ルーヴェンで開催される国際新ラテン語学会大会で木研究にかかわる発表を行う予定で	あス

2021年度は2020年度の作業を続行すると共に、8月にベルギー・ルーヴェンで開催される国際新ラテン語学会大会で本研究にかかわる発表を行う予定である。 なお2019年度終盤から2020年度初頭にかけて発生した新型コロナウィルス流行により2020年度初頭の研究も大きな影響を受けており、例えば2020年6月にリスポ ンで参加予定であった国際学会は2021年に延期され、またオーストリアにおける国外研修も一時延期となり現在は国内待機しながら研究を続行している。しかし 状況が以前の状態に復帰すればなるべく予定通り研究を続ける計画である。

9.次年度使用が生じた理由と使用計画

2020年度オーストリアにて行う予定であった国外研究のため研究資料を国外に送付する予定であったが、新型コロナウィルス流行のため国外研究開始が延期とな り、送付費用も当該年度には発生しなくなった。新型コロナウィルス流行が収束し国外研究が可能になれば送付費用に使用する予定。

10.研究発表(令和元年度の研究成果)

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)

1.発表者名 渡邉顕彦

2 . 発表標題

近世ラテン語、古典受容と16~17世紀の日本人

3.学会等名

日本における西洋古典受容(招待講演)

4 . 発表年 2019年

1.発表者名 渡邉顕彦

2.発表標題 西洋古典

3.学会等名

21世紀の人文知とは 世界の古典学から考える(国際学会)

4.発表年

2019年

1版

1 . 発表者名 Akihiko Watanabe	
2 . 発表標題	
lam fraus liquescit: The Munich Victor Play and Jesuits as Purveyors of Information on Early Modern Japan	
3 . 学会等名	
ICAS 11 (国際学会)	
4 Natr	
4 . 発表年	
2019年	

〔図書〕 計0件

11.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

12.科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

13.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

14.備考

_